

チーム医療の具体的実践事例

チーム（取組）の名称 術後疼痛管理（PCA（Patient Controlled Analgesia））チーム
チームを形成（病棟配置）する目的 <ul style="list-style-type: none">・ 術後疼痛の管理の質を向上させる・ 術後疼痛管理にかかわる医療関係者の負担を軽減する
チームによって得られる効果 <ul style="list-style-type: none">・ 手術後の疼痛管理が良好になる。・ 外科病棟医師、麻酔科医師の負担軽減になる
関連する職種とチームにおける役割・仕事内容 <p>医師：① 外科医師がPCAオーダー（プロトコルかすれば薬剤師の代行も可） ④ 麻酔科医が硬膜外カテーテルを留置し、PCAをセット ⑤ 受け持ち医が病棟帰室後、医学的に効果と副作用、感染兆候をモニタリング</p> <p>薬剤師：②PCAのための基礎薬液を薬剤部が調製 ③手術の推移を確認した手術室サテライト勤務薬剤師がフェンタニルを混合調製 ⑤病棟薬剤師が、病棟帰室後、薬学的に効果と副作用、感染兆候をモニタリング</p> <p>看護師：病棟帰室後、看護の視点で効果と副作用、感染兆候をモニタリング</p>
チーム運営に関する事項 <ul style="list-style-type: none">・ PCA運営マニュアルの作成・・・
具体的に取り組んでいる医療機関等 国家公務員共済組合連合会虎の門病院

チーム医療の具体的実践事例

<p>チーム（取組）の名称 母乳保育支援チーム</p>
<p>チームを形成（病棟配置）する目的</p> <p>合併症を有する妊娠は少なくない。このため妊娠・授乳期であっても薬物療法が必要になるが、母児の安全性に関する人のデータは限られているため、治療中断による健康上の問題が生じたり、母乳保育のメリットが得られない事態が発生している。</p> <p>母子の健康を科学的根拠に基づき支援するため、産婦人科医、小児科医、助産師、病棟薬剤師（妊婦・授乳婦専門薬剤師を含む）が、母乳保育のメリットを最大限に生かすチーム医療を構築する。</p>
<p>チームによって得られる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母乳保育のメリットを活かす ・ 母体の健康管理に必要な薬物療法を可能とする ・ 母乳を介して摂取した薬物による乳児の健康被害を防止する
<p>関連する職種とチームにおける役割・仕事内容</p> <p>医師：産婦人科医： 妊婦（近未来の授乳婦）が授乳した場合の、経母乳的な乳児への影響の評価を依頼 周産期カンファランスにて、産科的な評価とチームの対応を協議。</p> <p>小児科医： 周産期カンファランスにて、小児科的な評価とチームの対応を協議。 乳児の経過を医学的に確認し方針決定</p> <p>薬剤師：病棟薬剤師・専門薬剤師。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬物療法中の妊婦（近未来の授乳婦）が授乳した場合の、経母乳的な乳児への影響を評価するための科学的根拠の調査 ・ 周産期カンファランスにて、調査結果を提示し評価とチームの対応を協議。 ・ 妊婦（授乳婦）に授乳のメリット乳児リスクの有無をカウンセリング ・ 可能であれば授乳中の薬物濃度を測定し評価をフィードバック <p>助産師：周産期カンファランスにて、助産師としての評価とチームの対応を協議。 産前・産後の授乳婦のケア。</p>
<p>チーム運営に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産婦人科医、小児科医、助産師、病棟薬剤師（妊婦・授乳婦専門薬剤師を含む）が、周産期カンファランス（月1回）で、薬物療法の必要な妊婦・授乳婦、胎児・乳児のリスク評価を共有し、多職種一貫した共通の方針の下、医学、薬学、看護ケアを実施する。
<p>具体的に取り組んでいる医療機関等 国家公務員共済組合連合会虎の門病院</p>

